
ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No. 85

April 2012

2012年度ロシア史研究会大会（立命館大学） 四学会合同大会（同志社大学）

大会の共通論題、パネル、自由論題報告を募集中（4月末締切）

ロシア史研究会2012年度大会の準備が始まっています。今年は、2012年10月6日（土）～7日（日）にロシア史研究会大会（会場：立命館大学）の開催が予定されています。二日目の午後は、2008年と同様に、四学会（ロシア・東欧学会、JSSEES、ロシア文学会、ロシア史研究会）合同大会（会場：同志社大学）となります。

合同大会の共通企画の内容については、各学会の担当者が現在検討中です。決定次第、NLにてお知らせいたします。ロシア史研究会の共通論題につきましては、現在、企画を募集しております。現在までに寄せられたご意見をもとに委員会でも検討を重ねておりますが、まだ確定する段階にはありません。引き続き、会員の皆様のご意見を賜りたいと思います。ニューズレター84号に同封したアンケート用紙を事務局にご郵送いただくか、下記のメールアドレスにメールをお送りください。また、パネル、自由論題につきましても、4月末日が締め切りとなりますので、積極的なご応募をお待ち申し上げております。自由論題については「題目、梗概（A4一枚以内）」、パネルについては「題目、参加者・所属、梗概（A4一枚以内）」を、4月末日までに、メールないしは郵便で、事務局までご応募ください。

2011年4月15日
ロシア史研究会委員会

<送付・応募先>

ロシア史研究会事務局

Address: 〒162-8601

東京都新宿区神楽坂 1-3 東京理科大学理学部第一部教養学科池田研究室

ロシア史研究会事務局

【ロシア史研一月第一例会】

2012年1月20日、早稲田大学にて一月第一例会が開かれ、ニューヨーク大学教授のジェーン・バーバンク氏がPolicing the Empire: Law, Surveillance, and Sovereignty in Kazan Province, Early 20th Centuryという題目で報告しました。バーバンク氏は、20世紀初頭のロシア農民と法に関する著書があるほか、近年では帝国論の分野で精力的に活動されていま

す。今回の報告は、1912年にカザン県の村落で起こった二つの事件と、その取調べの過程に焦点を当てるものでした。農民の側については、村落内の紛争を解決する手段として法に依拠し、司法機関に訴えるというやり方が根付いていたこと、当局側については、正規の手続きを遵守しながら、かなり公正な取り調べがなされていたことが、指摘されました。その上で、農民側と当局側との間には、法への服従を基準として、政治秩序観が共有されていたという結論が示されました。地方



(2012年1月20日の例会でのジェーン・パーバンク氏/小森宏美撮影)

で起こったミクロな事件を詳細に分析することで、当時のロシア社会に関する大きな見取り図を提示するという、大変に刺激的な報告でした。

報告後には、様々な質問が出されました。史料をどう見つけたのかという問いに対しては、カザンのアルヒーフには関連史料が大量にあること、諸機関の連携に関心があったのでそのような性質のものを探したとの答えがなされました。今回の事例ではかなり公正な取り調べがなされているが、係官の資質如何によって状況は違ったのではないかという問いに対しては、腐敗役人に対する下からの訴えは適宜取り上げられたし、上からもたびたび査察が行なわれた。係官の個人的要素に対する考慮は、システムの一部に組み込まれていたとの答えがなされました。また、当局側と農民側の政治秩序観の共有という事態は、いつ頃始まったものなのかという問いに対しては、ゼムスキー・ナチャーリニクの導入が重要であるが、それが全てではない、1860年代以降、官吏の住民に対する数が次第に増えていく、この長期的な過程が大事であることが、指摘されました。

村落内で、誰かを排斥するために司法機関に訴えるというのは、手間がかかり過ぎではないかという疑問、また、今回の事例は迅速に処理が進んでいるが、地域によっては逆の事例もあるとの指摘も出されました。

今回の事例に関する限り、20世紀初頭のロシア帝国は農民側と当局側の関係が調和的であったように見えるが、実際には当時のロシアは社会層ごとの分裂が深刻だったのではないか、という問いに対しては、個々の社会層に対する垂直的・個別的な統治は有効に機能していた、その逆に水平的な国民的紐帯は形成されていなかった、最大の断裂線は知識人や専門職エリートと教育水準の低い人々の間を走っていた、しかし、1917年の帝国解体は民衆の反乱によるものではなく、エリートの側の行動によるところが大きい、あらためて強調したいのだが、垂直的な統治は有効に機能していた、という非常に示唆的な答えが示されました。

これ以外にも興味深い質疑応答がなされ、2012年の最初を飾るのにふさわしい例会となりました(文責池田)。

【ロシア史研究会・ソビエト史研究会2012年1月合同例会参加記】

地田徹朗（北海道大学スラブ研究センター）

筆者は、この度1月例会で『自然改造』理念とアラル海・バルハシ湖—1960～70年代を中心に」というタイトルで報告を行った。筆者は、昨年度が最終年度である総合地球環境学研究所（京都市）のイリプロジェクトに参加していた。このプロジェクトは文理融合で過去1000年のイリ川（カザフスタン・中国）流域の環境史と人間活動の変遷を研究してきた。筆者は社会主義時代の開発政策とその理念について成果を求められており、報告書（臨川書店より近刊）にソ連の開発理念に関する単著論文と、バルハシ湖及びアラル海流域での開発実態とその環境への影響に関する共著論文を執筆することになった。今回の報告はこのイリプロジェクトでの研究成果に基づいている。

報告要旨を簡単に述べておきたい。戦後スターリン時代の自然改造理念は、人間による計画的な自然改造により農産物など自然環境からの富も不断に増してゆくという正のスパイラルを想定していた。これに対し、1960年代以降の自然改造理念は、科学に立脚し計画的な自然改造を行う上での社会主義体制の優位性は譲らないものの、人間・自然関係をサイバネティクスの論理で捉え、自然改造の結果として生じ得る負の影響（環境悪化）を事前に考慮すべきと大きく理念の内容を改めた。アラル海流域とバルハシ湖流域ではこの自然改造理念の現実の開発への影響が大きく異なった。前者で自然改造理念は徹頭徹尾「破壊的」意味合いしかもたなかったが、後者では過剰な灌漑開発に科学的根拠がないと退けたことで、環境悪化を未然に防ぐ「抑止的」な役割を担った。自然改造理念は科学技術や経済計画といった合理的な人智への確信に依拠しており、「社会主義的近代化」の一側面を成した。しかし、最終的には自然改造理念自体が自然改造の実践を阻むという逆説に至り、アラル海問題に見られるように、その破綻は社会主義イデオロギーの空洞化を如実に物語った。フロアからは、自然改造理念変容の理由や「社会主義的近代化」の内容などについて貴重な質問やコメントをいただいた。それらはなるべく論文に反映させたつもりである。

若手の就職難が一方にあり、他方では研究の国際化が叫ばれる昨今、業績にならない例会の数は減少傾向にあるように思う。しかし、パフォーマンスとメッセージ重視の欧米の学会と比べ、じっくりと研究内容について詰めて話し合える例会の場はむしろ貴重ではないだろうか。筆者は国際化の意味合いを否定するつもりは毛頭ない。要はそれぞれの場の使い分けである。例会の活性化を切に望む。

【ロシア史研究会委員会より】

<訃報>

本年1月11日、本会会員細川滋さん（香川大学経済学部教授、63歳）が御逝去されました。ここに謹んで御冥福をお祈りいたします。

<ロシア史研究会 新ホームページの開設>

2012年3月末日をもって国立情報学研究所のサーバー提供サービスが終了するのにもともない、ロシア史研究会の新しいホームページをつくることになりました。新しいアドレスは http://www.gakkai.ac/russian_history/ です。まだ情報を入力していない項目が多いのですが、例会・大会の連絡はこちらにすぐに掲載するようにしていますので、ご覧ください。

<2012年度ロシア史研究会大会の宿泊について>

2012年度ロシア史研究会大会（四学会合同大会）は、紅葉シーズンの京都で開催されますので、宿泊地の確保が困難になることが予想されます。参加を予定されている方は、早めにホテル等のご予約をご検討ください。

<例会の案内>

2012年4月、5月、6月に下記の例会が開催されます。詳細は追って、メール・葉書にてご連絡いたします。ご参加をお待ちいたしております。

- 4月の例会：2012年4月21日15:00より（場所：早稲田大学9号館304教室）
立石洋子『国民統合と歴史学：スターリン期ソ連における『国民史』論争』合評会
（コメンテーター…中嶋毅、内田健二）

- 5月の例会：2012年5月26日14:00～17:00（場所：東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム2）
中東地域研究センター主催／ロシア史研究会共催
鶴見太郎『ロシア・シオニズムの想像力：ユダヤ人・帝国・パレスチナ』、藤波伸嘉『オスマン帝国と立憲政 -青年トルコ革命における政治、宗教、共同体』合評会

- 6月の例会：2012年6月23日
松戸清裕『ソ連史』合評会
（コメンテーター…瀧口順也）

<『ロシア史研究』バックナンバー特価頒布のお知らせ>

現在会誌のバックナンバーは、以前事務局長を担当していた関係で主に土屋好古委員の研究室に保管されています。しかしすでにバックナンバーの分量が限界に達しつつあります。そこで、委員会ではトランクルームの利用なども含めて、バックナンバーの保管方法について検討を進めることにいたしました。それに先立って多少なりとも在庫を減少させるために、80号以前の号について、1号300円（送料別）で会員の皆さんに購入していただく機会を設けることにしました。30号前後から対応できますが、40号、41号についてはすでに保存用を除いて残部がありませんので、あらかじめご了解下さい。ご希望の方は、次の情報を土屋（ytscuhy(at)chs.nihon-u.ac.jp）までお寄せ下さい。できるだけ速やかにお手元にお届けいたします。

- 1) お名前
- 2) 希望号数
- 3) 受取先住所（送料着払いでお願いいたします。誌代については振り込み用紙を同封します。）

比較的最近入会されて、80号以前の会誌をお持ちでない方々は、是非この機会にご購入いただければと思います。

ロシア史研ニューズレター
第85号 2012年4月16日発行
編集・発行 ロシア史研究会委員会
（担当：青島陽子）
〒162-8601
東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学理学部第一部教養学科
池田嘉郎研究室気付
